

令和3年度 専門学校東京国際ビジネスカレッジ

自己評価報告書

令和4年5月1日

学校法人創志学園



専門学校

東京国際ビジネスカレッジ

TOKYO INTERNATIONAL BUSINESS COLLEGE

1. 学校の教育目標

幅広い外国語教育と国際感覚を兼ね備えたビジネスのスペシャリストを養成するための専門教育及び人格形成に必要な教育を行うことを目的に掲げ、国際社会において通用する専門性の高い知識と教養を修得する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) アジアおよびヨーロッパ諸国の 19 カ国の学生が共に学ぶ国際色豊かな環境を活かし、異文化理解を深め、協調性を身につけ、語学力(英語・日本語)を向上させ、世界の市場で即戦力となる人材の育成に努めていく。

(2) 入学時から就職内定を視野に入れ、日商簿記 2・3 級、TOEIC、MOS、ホテルビジネス実務検定、色彩検定など専門性の高い資格取得を 1 年次に合格できるよう指導を行っていく。

(3) 経営研究学科に Self-management コースの新コースを設置。

(4) 語学教育のレベルアップを目指し、教材およびクラス編成の見直しを行い、学内全体の英語力向上を目指す。また、Business Management コースを中心に英語でビジネスが学べる環境作りを継続して行い、国内における外資系企業への就職希望者をターゲットとしていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1).教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像について、教職員がしっかり理解し、学生へは授業を通じ伝えている。また、学校案内やホームページなどに記載し、対外的に周知させている。
- ・保護者へは、入学式・卒業式への案内状を通じ、式典への列席やオンラインでの視聴参加を促し、式典を通じ当校をより良く知ってもらうようにしている。
- ・コロナ禍において、授業を登校して出席する学生とオンラインで出席する学生とに分けたハイブリッド授業を展開した。後半からは全面登校に切り替え、対面式の授業を展開した。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方法が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・年数回の教職員全体会議の他、定例の学校運営会議を実施。会議を制度化し意思決定を行っている。また、各プロジェクト・コース単位の会議を適宜開催している。
- ・計画に基づく採用や新コース設置に伴う人員配置、活性を図るために人事異動を適性に実施している。
- ・学校の目的、目標達成のため、企業より情報を求めている。
- ・コロナ感染症対策として、消毒・自動検温装置・飛沫防止シートを設置し、感染防止を行っている。
- ・ホームページだけではなく、年間に数回ニュースレターを作成し、出身学校へ送り、教育活動に関する情報公開を行っている。
- ・学校関係者評価委員会報告書を公開している。
- ・学生の学籍管理はデータ化されており、出席証明書、成績証明書等の発行業務の効率化が図られている。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか。	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

【総括・特記事項】

- ・グループワークやプレゼンテーション、ビジネスマナー、情報処理など社会人基礎力を養うキャリア教育を多く取り入れている。
- ・土曜日、夏季・冬季休暇を利用した資格取得ゼミを実施している。
- ・関連分野における実践的な職業教育として、提携先企業でインターンシップを実施している。
- ・教員の指導力育成などの資質向上のため、外部研修へ参加することを奨励している。
- ・欧米からの学生が入学し多国籍化が進んでいることから、アジア圏出身学生との文化の違いを把握した上で、の学生指導を行っていく。

・教職員全体研修を実施している。

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図れているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

【総括・特記事項】

- ・コロナ禍において、就職活動は厳しい状況ではあるが、学内で企業説明会を開催し、就職活動を早期にスタートできるように十分に指導している。
- ・キャリアサポートセンターを設置し、履歴書やエントリーシートの対策、面接指導を実施している。
- ・就職プロジェクトチームとクラス担任が連携を図り、求人票の案内や学内説明会への誘導など学生へのサポートを学校全体で実施している。
- ・資格の団体申込や試験会場の設置など、受験率の向上に努めている。
- ・前期皆勤賞など各種表彰制度を設けることによって、出席意欲を高める。また、卒業式・入学式では特別表彰を行っている。
- ・ニュースレターやパンフレットにおいて、資格の合格者のインタビュー記事や内定速報を掲載して、学内・学外へ功績を評価し、発信している。
- ・クラス担任制により学生一人ひとりのきめ細かいケアを行い、退学率の低減を行っている。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教員環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の 取組が行われているか	4 3 ② 1

【総括・特記事項】

- ・学内に無線 LAN を整備し、コロナ禍における就職活動のオンライン面接の増加に伴い、学生に対して空き教室を開放することで環境を整備している。
- ・教職員から構成されている進学(大学、大学院)プロジェクト及び就職プロジェクトを中心に継続して進路指導の強化を行っていく。主に、大学院進学セミナーや学内企業説明会などの開催、各コースで実施している HR や専門性の高い資格取得(日商簿記 3・2 級、TOEIC 600 点以上他)などを通じて、1 年次からの意識改革を継続している。
- ・出席率・成績・授業態度の悪い学生においては、クラス担任より保護者へ連絡を行っている。また、適宜学生の家庭訪問実施し、学生の生活状況把握に努めている。
- ・卒業生には、学内で実施している資格対策講座を受講できるようにしている。受講料は徴収していない。
- ・日本学生支援機構(日本人・留学生)を適宜紹介している。
- ・定期健康診断を毎年 1 回実施し、異常所見のある学生には再検査の案内をしている。
- ・サッカーサークルを運営し、学科間を超えた交流を促すことをしている。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・コロナ禍において海外研修に代わり積極的なオンライン交流授業を実施。EMBA Business School(仏)とハワイパシフィック大学(米)と実施。
- ・避難訓練を実施し、非常時における教職員の役割を把握するとともに、学生へも非常時の行動を指導している。
- ・災害時で使用する水・カンパン・簡易トイレ等を備蓄している。
- ・1号館・2号館にWi-Fi環境を整備し、ICT教育の充実を行っている。

(7). 学生の受入募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・国内留学生、海外留学生、一般生など各セグメントにおける学生募集のあり方を再確認し、日本語学校、海外教育機関、高校への情報発信の頻度を上げて対応する。近年、学生を取り巻く環境の変化が激しく、学生の求めるものも変化している。そのため、学生のニーズに合わせた募集活動を行っている。
- ・募集案内は毎年更新し、常に分かりやすさ、見やすさを考えた情報提供に努めている。
- ・SNSを活用し、Twitter、Facebook、LINEなど新しい情報をより早く発信する体制を整えている。
- ・全教職員で学生募集活動を実施している。
- ・学校説明会において、教育内容、教育成果を正確に伝えている。
- ・入学選考方法については、募集要項に明記し、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・学納金については、学生および保護者の負担を軽減するために、本校独自の奨学金や分納制度を利用できるようにしている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計検査が適性に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開に体制整備はできているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定している。
- ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。
- ・会計検査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて公開している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っている。
- ・全教職員で個人情報の扱いに十分注意し、管理している。
- ・自己評価の点検項目について今後も検討を重ねていく。
- ・ホームページにて自己点検・自己評価表の公開を行っている。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練を含む)の受託等積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

【総括・特記事項】

- ・浅草橋紅白マロニエ祭り、柳橋町会運動会、浅草地域帰宅困難者及び外国人観光客対応訓練ボランティアに学生が積極的に参加していたが、コロナ禍のため参加の機会がなくなってしまった。参加の機会があればこれまで通り参加していく。
- ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託については、積極的に受け入れていきたい。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・留学生の受入れ・派遣について戦略を行っているか	④ 3 2 1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・学校法人の海外オフィス(アメリカ・ハワイ、ベトナム)を設置。海外の大学などとの提携を結ぶことで留学生の派遣・受け入れを行っている。
- ・留学生の受け入れは、ほとんどが日本国内の日本語学校であるため、日本語学校への訪問活動や説明会などは頻繁に実施し、資格合格者が出ると出身日本語学校へすぐに報告書を郵送して学生の成果を報告している。
- ・学生の学修・生活指導において学内で適切な体制が整っている。学生のアルバイト先の情報を把握している。
- ・日本留学 AWARDS 大賞受賞。(財)日本語教育振興協会が主催し、日本全国 400 校を超える日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先として、専門学校部門の上位ノミネート校として 9 年連続表彰され、H29 年度・H30 年度・H31 年度・R2 年度・R3 年度と 5 年連続で大賞を受賞し、殿堂入りとなった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校の教育理念・目標を学生に対して徹底して理解、共有させるため、「ホスピタリティ」の授業を全学生に実施することを継続し、今後グローバル化が進展した社会において最も求められる「異文化コミュニケーション」の力を育成するための取り組みを強化していく。本校は欧米 7 カ国 11 大学との教育連携を締結している。

コロナ禍において海外研修に代わり積極的なオンライン交流授業を実施。語学習得だけではなく、実際に世界を知ることでの異文化体験、異文化理解の機会を作ることができた。今後も提携校を拡大し、学生の異文化交流の機会を増やすことを継続していく。

コロナ禍において、感染症対策を万全に実施した状態で、学校全体でのイベントを季節ごとに実施することができ、学生・教職員一丸となって学校を盛り上げることができた。今後も継続して行っていく。

コロナ禍の不安から、卒業を待たずに就職、進学、帰国を決断する学生が増加することが予想されたが保護者とも連携を強化して退学を防止することができた。

企業との連携においては、これまで通りのホスピタリティ教育を継続すると共に、学内企業説明会の開催を継続、より多くの企業に直接本校での説明会を行っていただいた。今後は国内外の企業での就職の機会を増やすべく連携強化を図っていく。早期から就職に対する意識づけを図り、自分のやりたいことや適性を理解するために、1 年生に対するインターンシップの募集を積極的に行い、インターンシップ先への内定を獲得した学生を輩出することができた。今後もインターンシップ先との関係を構築し、早期の内定獲得者を増やしていく。

これまで同様の浅草地域、浅草橋地域でのボランティア体制を確立し、積極的にボランティア精神を養う活動を継続する。

より国際感覚を持つ人材が求められるようになっている現在において、本校の目標とする「ホスピタリティ精神を持った人材育成」「異文化理解のできる人材育成」は重要であることを教職員間でも再認識し、「リエゾン人材」として世界で活躍できる国際感覚を持つ人材を輩出すべく、取り組みを強化していく。